

地震や水害などの被災地で必要とされる「災害ボランティア」。いざ、という時、すぐに動き出すために。プロに聞くHow Toガイド。

Illustration: Manako Kuroneko text & edit: Yoshie Chokki

STEP #4

初心者でも参加しやすい
女性が活躍するボランティア



【炊き出し】

互理いちごっこ
<http://ichigokko.org/>
東日本大震災をきっかけに、被災者への食事提供、地域内外の交流の場づくりを目的に立ち上がったNPO法人。2019年は台風19号による被害が大きかった宮城県丸森町で炊き出しを行うなど、積極的に活動。地域コミュニティを担う場として、カフェレストラン(いちごっこキッチン・散歩道)も運営する。ボランティア募集など、詳細はFacebookにアップ。

【写真の救済】

被災写真救済ネットワーク
<http://rescue-photo.net/>

その人の「生きてきた証」である「宝物」を救うために、日頃から風水害によって被災し、水や泥・砂にまみれた写真の救済ノウハウを広く一般に伝える活動を展開。代表の一人は、現在も東日本大震災の津波で流出した陸前高田市の約7万枚に及ぶ写真の返却活動を続けている。団体ではこれからの災害に備えて、ホームページで手伝ってくれる仲間を広く募っている。



1. 搬送が浸水した大町駅の必要品。2. 自衛隊が避難所に設置したお風呂の入り口。3. 搬上り作業。4. 下水道を洗浄しているところ。4. 一棟に参加した、おそらく二度とお会いする機会がないかもしれない方たちとの、作業終了時の一枚。

STEP #3

被災地に到着！ 知っておきたい
のは…従事する際の注意点



- ☑ 自身の安全確保と体調管理
- ☑ 受入れ先の指示に従って活動する
- ☑ ボランティア同士もよくコミュニケーションを取り、協力し合う
- ☑ 一方的な支援にならないよう、被災者に寄り添う

家屋の片付け、物資の仕分け、交流の機会作りなど、活動内容は多岐にわたる。「自分勝手な行動は絶対にしないこと。善かれと思いついたことが、被災地の負担となることもあります。受入れ先との報告・連絡・相談は密に。また、近年はSDGsの知識を深めておくことで、より広い視野を持って考えることができるようになると思います。」(大熊さん)

Volunteer Activities

女性ができるボランティア。

STEP #2

いよいよ出発！ でも
その前に…準備するもの、服装

- ☑ 動きやすい服装 ☑ 長袖長ズボン ☑ タオル
- ☑ マスク ☑ ゴーグル ☑ ヘルメット ☑ 軍手
- ☑ 雨具(上下分かれたカッパが便利) ☑ 長靴
- ☑ 運動靴 ☑ 帽子 ☑ 着替え ☑ 常備薬
- ☑ 救急セット ☑ 食べ物、水分
- ☑ 健康保険証 ☑ ボランティア活動保険加入証

受入れ先の情報や受入れ条件をしっかり確認する。「と同時に、現地に行ってからの動きや、自身が安全に活動するために必要なことをイメージしながら、持ち物の準備を。特に二次災害によるケガや、感染症に罹患した際に補償してくれるボランティア活動保険への加入は必須です。」(大熊さん)。手続きは最寄りの社会福祉協議会で、保険料は350円から。



STEP #1

参加しよう！ と思ったら
まずは…情報収集から



災害発生地域の各自治体のHP

社会福祉法人全国社会福祉協議会
<https://www.shakyo.or.jp/bunya/saigai/bora.html>

社会福祉法人全国社会福祉協議会
地域福祉部/全国ボランティア・市民活動振興センター
<https://www.saigaivc.com/>

一般社団法人ボランティアプラットフォーム
ボランティアマッチングポータルサイト
<https://b.volunteer-platform.org/>

テレビのニュースからSNSまで、洪水のように押し寄せる被災地の情報。その中で、今必要とされているのはどんなことかを含め、宿泊場所や移動手段、現地での実際の動きなどを冷静に情報収集することが大切。「上記は信頼できる情報が掲載されているHPです。」(一般社団法人ボランティアプラットフォーム 海外事業部マネージャー・大熊あすかさん)

2

何かをしたい、と思った時に。

がれきの除去など、体力仕事だけがボランティア活動ではありません。話を聞いたり、支援金というカタチでのサポートもあるんです。「やってみよう」を「やる」に変えるために、今、知っておきたいこと。

MY VOLUNTEER REPORT

初めての災害
ボランティア体験記。



医師
中島侑子
(@yuko_nakajima)

実際に現地に赴き、ボランティア活動を体験した読者2人に聞くリアルレポート。



1. 参加する前に、ボランティア活動保険の加入証が郵送で届きました。2. 日曜日の場合は、長靴、分厚い防水手袋は必須。

無力な自分と向き合った
初めての経験



ビューティコンサルタント
いちみちちゃん
(@i.michan)

2019年5月の佐賀県南村・地元の手洗場を自らの地元に、いてもらってほしい。参加しました。参事になったのは、地元の社会福祉協議会のFacebookと、先に現地に入っていた友人のSNS。私はひとりでしたがグループでの参加も歓迎されていました。深々と家屋の解体、雪上げ、床下の住居洗浄、釘抜き、確認したのは、これまでの自分の経験はほとんど役に立たないこと。異や軍需の状態を正確に判断できなかったり、多くの人で1日作業しても、すべてを完了できなかったり。少しでも自分に役に立てることはないか、作業量もかなり多く考えていました。作業力もたつたとしても、どろりとした土質だったので、土を踏み踏んで、そう信じていました。また、行ってきた、それだけはやった、という